（第3種郵便物認可）　中

木曽川導水路の建設
容認方針の経緯説明
意見交換会で名古屋市長

徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を揖斐川から木曽川に流す木曽川水系連絡導水路事業を巡り、名古屋市は十三日、同市の中区役所ホールで学識者や市民との意見交換会を開いた。河村たかし市長は、良質な飲料水の安定供給などを目的に建設を容認する方針を決めた経緯を説明した。

意見交換会は市の新方針を説明し、事業に関する意見や提案を受け付けることが目的で、研究者と市民団体に加えて公募の市民百人も参加した。

市民らとの意見交換会で、木曽川水系連絡導水路事業についての方針を説明する河村市長＝名古屋市の中区役所ホールで

「水余り」を理由に導水路建設に反対してきた河村市長は二月、良質な飲料水の確保と治水対策、堀川の水質改善の三つの新用途を条件に建設を認める方針を表明。市は導水路がなければ水を活用できない徳山ダムの建設費の一部と管理費の負担を続けている。もともと、ダム建設に反対だった河村市長は市民に「何か使い道がないかと、苦労して考えた」と理解を求めた。

専門家からは「渇水や大規模洪水への備えとして有効」などと賛成論が出る一方、水余りや人口減、建設費の負担などを理由に反対の意見もあった。会場で発言を求めた市民の多くは建設反対の立場で、「新たに巨額の工事費を投じる必要はない」「導水による生態系の混乱が考慮されていない」などの声が出た。

河村市長は意見交換会後、報道陣に「（徳山ダム建設に）反対してきた人の気持ちを思うと、強いことを言われるのは当たり前だ」と指摘。一方、「なるべく有効に（使おう）という考えに変わりはない」と述べ、改めて導水路容認の立場を示した。

導水路事業を巡っては河村市長が二〇〇九年五月に計画からの撤退を表明。同年十月には旧民主党政権が計画を凍結し、国は現在、事業の再検証を進めている。当初計画段階の総事業費は八百九十億円。国が四百八億円を支出し、名古屋市が百二十一億円、残りを愛知、岐阜、三重の三県が分担することで合意していた。（鈴木龍司）

2023.5.14
中日新聞

@東海

徳山ダム導水路容認
河村市長「変更ない」
意見交換会 市民から反対の声

出席した河村たかし市長(左から2人目)や意見発表した学識者、市民団体代表ら＝13日、名古屋市中区栄の中区役所ホール

河村たかし・名古屋市長が「容認」に転じた、徳山ダム(岐阜県揖斐川町)の水を長良川や木曽川に引く連絡導水路事業をめぐり、13日、同市で意見交換会が開かれた。100人が参加し、市民からは反対意見が相次いだが、河村市長は終了後、「ええ意見は採り入れるが、方針変更はない」と語った。

河村市長は「水余り」を認めながら、水の安定供給や治水の推進、堀川浄化の三つを提案することで転換したとしており、賛否が焦点だった。市が選んだ学識者、市民団体代表の発表は、8人中6人が賛成で、「気候変動で渇水や洪水のリスクが高まった」「明治用水頭首工のように、インフラ老朽化が進んだ」などとした。

しかし、市民の会場発言は9人中7人が反対。「堀川浄化は、余っている水道の水を使えばいい」「(連結していたはずの)河村市長の手のひら返しにびっくり」「生態系への影響を考えるべきだ」などと続いた。反対の挙手が多く、司会が「賛成の人は?」と促す場面もあった。

河村市長は、まとめで「徳山ダムを造ってまった以上、(導水路で)使わないかん」と話すと、会場から「税金(料金)が高くなるぞ」とヤジも飛んだ。(伊藤智章)

2023.5.14
朝日新聞

〈毎日〉

2023.5.14
毎日新聞

導水路事業 反対相次ぐ

木曽川 名古屋で意見交換会

木曽川導水路の建設計画について、名古屋市の河村たかし市長が認める意向に転じたのを受け、市は13日、学識者や公募に応じた市民約100人を集めて意見交換会を開いた。

建設に反対する声が相次ぐ中、河村市長は「どうやったら今までやってきたことが生かせるのか。（反対する）皆さんの指摘はごもっともだが、このままほかっておくわけにはいかん」と述べ、計画を推進する考えを改めて示した。

2月に方針転換した河村市長は国に新たな事業提案書を提出し、合意形成を目指している。中区役所ホールで開かれた意見交換会の冒頭、市の担当者が導水路事業は水道水の安定供給や市内を流れる堀川の水質改善につながると説明した。

また、事業から撤退しても徳山ダムの建設費と管理費を市民が負担しなければならず、給水を受ける人が年約50円ずつ多く負担するだけで徳山ダムの水を有効活用できるようになると強調した。

登壇した5人の学識者のうち、中部大の松尾直規名誉教授は温暖化による渇水や取水施設の老朽化を踏まえ、「導水路は市民の命と暮らしを守る。一日も早く完成させる必要がある」と述べた。

岐阜大の富樫幸一名誉教授は「ダムに依存しなければならないような渇水リスクはない。一般家庭向けの給水量は減少傾向にある」と指摘。資材や人件費が高騰する中で「試算されている事業費で収まるはずがない」と反対の理由を説明した。

「徳山ダム建設中止を求める会」の近藤ゆり子事務局長は「徳山ダムはいらなかった。無駄に無駄を重ねてはいけない」と撤退を求めた。意見を述べた市民9人のうち7人が「新たに工事費を投じる必要はない」「環境に悪影響を与えるのではないか」と反対した。

意見をさらに聴く機会を求める声に対し、河村市長は「皆さんの提案をお伺いしてもいいが、なるべく上流の神様に近い水を赤ちゃんに飲ませてあげたい」と語った。

【酒井志帆】

木曽川導水路

揖斐川上流に建設された徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を、揖斐川から名古屋市の取水口がある木曽川に流す水路。木曽川と長良川の渇水対策や河川環境改善のため、上流に全長約43キロ、下流に全長約1キロのトンネルを建設する計画で、2009年度着工、15年度完成の予定だった。しかし、河村市長が09年に撤退を表明。その後、当時の民主党政権が事業を凍結した。

ダム導水路

河村市長 改めて推進

名古屋で意見交換会

徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を揖斐川から木曽川、長良川に流す導水路の建設事業について、名古屋市の河村たかし市長は13日、賛成、反対の両立場の有識者や市民団体メンバーが参加した意見交換会で、「このままほったらかしておくわけにはいかない」と述べ、推進する考えを改めて示した。

河村市長は2009年の就任当初から水余りを理由に同事業に反対してきたが、良質な飲用水の安定確保や、堀川にも水を流して水質改善につなげるなど、新たな活用法を挙げ容認に転じた。

導水路事業を進める考えなどを示した河村市長（13日、名古屋市中区で）

意見交換会で、賛成側は各地で相次ぐ豪雨災害への備えや、地球温暖化に伴う渇水対策の必要性などを指摘。「堀川の浄化も進み、都市の魅力を高められる。導水路は有効だ」などと述べた。

一方、反対側は導水路の建設事業費約890億円のうち市の負担分や、新活用法の実現のための追加事業費などが、資材や人件費の高騰により、今後増大する可能性を指摘した。「無駄を重ね、未来の世代の負担を増やすべきではない」と語った。

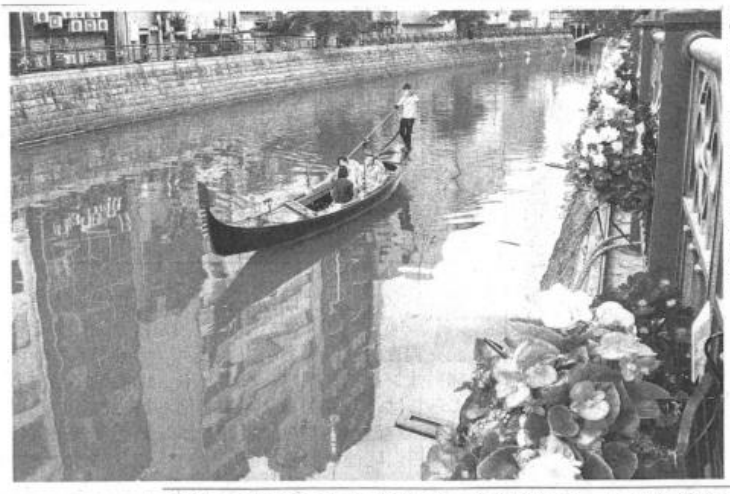
一般市民ら約100人が参加し、木曽川や長良川の生態系の変化を危惧する声も上がった。

2023.5.14
読売新聞

堀川・納屋橋周辺 花彩る

フラワーフェス ゴンドラ周遊も

名古屋市中心部の堀川にかかる納屋橋周辺で、「堀川フラワーフェスティバル2023」（読売新聞中部支社など協賛）が開かれている。



ゴンドラでの周遊を楽しむ人たち（名古屋市中区栄で）

市民に堀川の歴史に触れ、水辺の美化意識を高めてもらおうと、市民団体や商店街などで作る実行委員会が主催しており、今回で17回目。錦橋から天王崎橋にかけての川沿いを、ベゴニアなどカラフルな花で作られた420個のハンギングバスケットが彩り、川沿いは花の香りに包まれている。

27日までの期間中の土日は、イタリアで作られたゴンドラに乗船できるほか、納屋橋の歴史についてのガイド付きクルーズ船も運航している。いずれも有料で雨天中止。13日にゴンドラで錦橋から納屋橋にかけて夫婦で周遊した名古屋市守山区の公務員吉田聖美さん（52）は「花が並び、いつも見る景色とは違う下からみる堀川がきれいだった。堀川の知識も深まり、楽しかった」と話した。